

## WEB アプリケーション「みんなで翻刻【地震史料】」の公開

市民参加で地震史料を後世に残し、新たな史料発掘へ

京都大学古地震研究会（中西一郎・京都大学大学院理学研究科教授が主宰）は、研究者と市民の皆さんがともに古い地震史料の翻刻に参加できる、パソコンやタブレット向けの WEB アプリケーション「みんなで翻刻」を開発し、2017年1月10日（火）に公開しました。このアプリケーションで、一般市民とともに地震史料のテキスト化を加速させて史料の保存を目指し、新たな史料の発掘にも取り組みます。

※翻刻：くずし字等で書かれている古文書を、一字ずつ現代文字に活字化する作業

### 概要

日本には地震について書かれた史料が数多く現存し、その数は世界一とも言われています。しかし翻刻されたものはごく一部で、未知の情報を含む可能性のある史料のなかには、翻刻されないまま消失しつつあるものがあります。そこで京都大学古地震研究会では、市民の皆さんにも翻刻に参加してもらい、テキスト化を加速する取り組みをはじめます。このアプリケーションの「まなぶ」「翻刻する」「つながる」の3つの機能は、史料のくずし字を解読できない人でも研究への参加を可能にする、これまでにない新しい窓口となります。

<みんなで翻刻【地震史料】>

<https://honkoku.org/>



## アプリのおもな機能と特徴

- 「まなぶ」 数多くのくずし字のパターンや、江戸時代の本から収集した熟語・約 3000 パターンを収録。くずし字学習支援アプリ KuLA と連携。
- 「翻刻する」 東京大学地震研究所所蔵「石本文庫」から約 200 点を収録。Wikipedia のように、多人数が同時に書き込める「ライブ」機能付き。
- 「つながる」 SNS 機能で写真や文章の投稿が可能。
- 史料をパラパラめくるように閲覧できます。

## 波及効果

- 過去の地震に関してこれまでに知られていない事実が発見される可能性があります。
- 過去の解析の前提となったデータの再検討が可能になります。
- くずし字の知識習得者を増加させます。
- 地震史料のテキスト化を加速することで、史料を後世に残します。
- SNS 機能を利用し、日本各地で眠る災害史料の発掘に寄与します。
- 地震史料以外にも、日本各地、各組織で進む史料のデジタルアーカイブ化やデジタル公開に新たな戦略をもたらします。
- 過去の災害について学ぶことで、市民の防災意識の向上をめざします。

## 今後の予定

- 古地震の年表、発生場所を記した地図を作成します。
- 東京大学地震研究所所蔵「石本文庫」以外の史料も掲載し、翻刻を進めます。
- 他の web サービスとのコラボレーションが生まれる可能性があります。

## 参考サイト

- 京都大学古地震研究会（地震学、地質学、気象学、歴史学、地理学など様々な研究者が過去の災害を調査研究）<http://kozisin.info/>
- くずし字学習支援アプリ KuLA  
[http://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/research/community/hodo/iikura\\_KuLA](http://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/research/community/hodo/iikura_KuLA)
- 東京大学地震研究所図書室 <http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/tosho/>

## お問い合わせ先

みんなで翻刻（京都大学古地震研究会）

E-mail: [support@honkoku.org](mailto:support@honkoku.org)

Twitter: @CloudHonkoku

## 画面の例

The screenshot shows the homepage of the 'みんなて翻刻！地震史料' (Everyone Digitizes! Earthquake Historical Documents) website. The header is blue with the title and a search bar. A left sidebar contains navigation links like 'ホーム', 'ごあいさつ', and '地震史料を翻刻する'. The main content area displays a grid of six historical document thumbnails, each with a title and a progress bar indicating digitization status. The documents include '地震年代記', '諸国地震年代記', '本朝地震記 全', '大江戸 地震後教 人事改正 平...', '江戸 大地震未代断の種 全', and '安政息災記 全'.

利用可能な史料の一覧

This screenshot shows the digitization interface for the document '諸国海辺地震津波書' (Shokoku Umi no Kawa no Shinan). The top bar shows the document title, a star icon, and a progress indicator '3 / 12コマ 翻刻完了'. A '編集開始' (Start Editing) button is visible. Below the title, there are tabs for '閲覧' (View), '入力' (Input), 'ノート' (Notes), '編集履歴' (Edit History), and '凡例' (Legend). The '閲覧' tab is active, showing a list of text elements on the left and a large image of the document's pages on the right. The text elements include '諸国の海辺地震', '大津波の図', 'あだ浪の図', 'よするにつれて', 'ちりやせん', 'きしの干潟の', '花さくら貝', '神詠', 'ゆるぐとも', 'よもや', 'ぬけしの', 'かなめ石', '鹿島の神の', and 'あらんかぎりは'. The image on the right shows two pages of the document with illustrations of waves and a landscape. A small text box at the bottom right of the image area reads '東京大学地震研究所図書館所蔵'.

「翻刻する」画面の例

「諸国海辺地震津波書」（東京大学地震研究所蔵，石本文庫 229）.